

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：コラコラ（Coral Collabo）

活動地域：八重山諸島

活動におけるテーマ

『島全体がつながりあう“巡る島”』

本事業への関わり：1年目

活動団体と地域の紹介



八重山のかげがえのない自然を守るために、私たち自身が暮らしを見直してみることで、サンゴに優しい事業を増やすために八重山地域のローカル認証を作ることが、サンゴ礁海域の衰退を止めるのに有効ではないかと考えました。さらに、サンゴについて知ることをキッカケにして自然環境全般に意識を向けてもらうことが大切だと考えています。

2019年から始まった勉強会でサンゴに優しい取り組みのアイデアを出し合っ、農業と飲食業におけるガイドラインが出来上がり、参加型ローカル認証制度としてスタートし、現在では認証事業者が11組誕生しています。

今後は宿泊業や他の業種にもガイドラインを広げていくために活動を続けています。

農

飲食

使わない

- ① 除草剤を使わない
- ② 農薬を使わない
- ③ 化学肥料を使わない

使わない

- ① 合成洗剤を使わない
- ② 脱プラスチック
- ③ 化学調味料を使わない

環境を考える

- ④ 畑の周りの排水溝の掃除
- ⑤ 自然に還る資材を選ぶ
- ⑥ 赤土流出を防ぐためにグリーンベルトを植える

環境を考える

- ④ 取組みの表示
- ⑤ 油を排水溝に流さない
- ⑥ 生ごみコンポストを設置

生き物を考える

- ⑦ 島にある有機物を使った土作り
- ⑧ 畑の植物の名前が分かる
- ⑨ 畑に棒が1m以上刺さる

食べ物を考える

- ⑦ 八重山食材100%のメニューをひとつ作る
- ⑧ 八重山食材50%以上使用
- ⑨ フードロスゼロを目指す



活動計画（概要）①

地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

八重山の大切なサンゴの海が、50年前よりも大きく衰退。地球温暖化のみでなく陸域での人間活動が大きな原因になっている。島で循環せずにごみとして処理されるものによる環境負荷も大きな問題。

地域のありたい未来

ゴミはゴミにならずに資源として循環し、人的な資源も循環することで、島全体がつながりあう「巡る島」
「人々の充足感」と「自然環境の再生」が両立する社会が、私たちの目指す地域の姿

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）プラットフォームの中心を担うコラコラのメンバーが、活動を持続可能にするため、関係性も働き方もあり方も持続可能であることを望んでいる。そのため、一人一人が自分たちのルールや仕組みを理解して独自に工夫し、意思決定していくティール組織の体制と、メンバーやステークホルダーがみんなで出資し、経営にみんなで参加し民主的に事業を運営し責任を分かち合っていく、ワーカーズコープの体制を併せ持つ団体像をイメージしている。そして、コラコラを通して、ローカル経済事業、資源循環事業、市民啓発事業の3つの取り組みが連携することで、環境的に持続可能で、社会的につながりあい、精神的にも充足した地域環境が実現することを期待する。人と地域がつながり、それにより人々の生活がより豊かで満たされたものになり、物や金銭ではなく、共有することで豊かになれる社会が実現することを目指す。また、環境に配慮した事業にお金が巡ることで、人々の意識の転換と、自然の再生、健全な循環が生まれる事が期待される。

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

豊かな自然環境、独特の文化芸能、すでに活動している団体、使われていない施設、亜熱帯の気候、繁殖力旺盛な草木

活動計画（概要）②

事業のタネ

■ローカル経済事業

- ★コラコラ認証の推進（参加型ローカル認証）、
 - ・排水浄化の取り組み、
 - ・石垣型林業の構築

■資源循環事業

- ★石垣島キエーロプロジェクト（コンポスト普及・提案）、
- ★MMO（マイボトルで水おかわり）、
 - ・葉っぱ包装（プラスチック用品の削減）、
- ★大☆ぶつぶつ市（不用品を資源として循環）、
 - ・海洋プラごみアップサイクル、
 - ・古い建物の修繕・マッチング

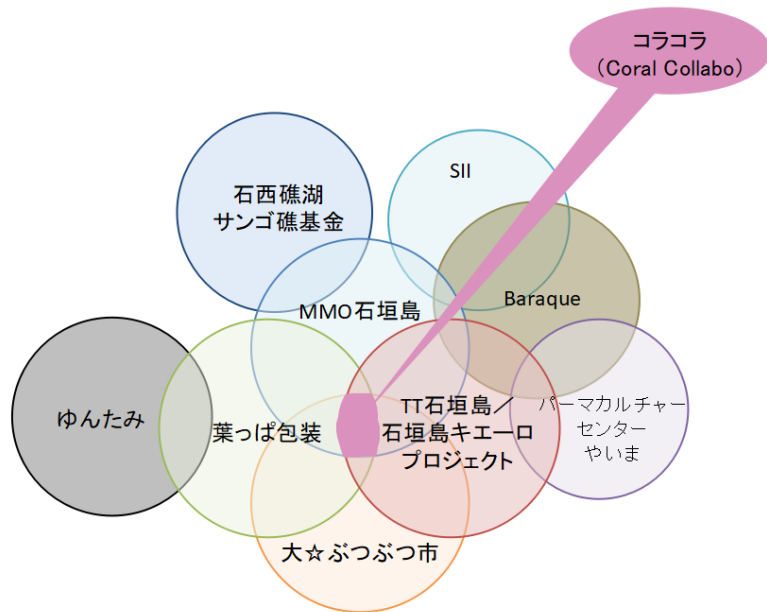
■市民啓発事業

- ・コミュニティでの助け合い、
- ・給食のオーガニック化、
- ・市民学校（生涯学習施設）

★マークの物をR4年度は主に取り組みたい。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



コラコラの幹事はコラコラ以外の環境保全につながる活動を行っており、それらの活動との連携がすでにとれている。また、これまでも勉強会やマルシェなどの活動を通して、様々な活動団体とネットワークがあり、ともに連携して石垣島の地域循環共生圏のプラットフォームを構築できると考える。

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

プラットフォームの中心を担うコラコラのメンバーが、活動を持続可能にするため、関係性も働き方もあり方も持続可能であることを望んでいる。そのため、一人一人が自分たちのルールや仕組みを理解して独自に工夫し、意思決定していくティール組織の体制と、メンバーやステークホルダーがみんなでお金を出し、経営にみんなが参加し民主的に事業を運営し責任を分かち合っていく、ワーカーズコープの体制を併せ持つ団体像をイメージしている。そして、コラコラを通して、ローカル経済事業、資源循環事業、市民啓発事業の3つの取り組みが連携することで、環境的に持続可能で、社会的につながりあい、精神的にも充足した地域環境が実現することを期待する。人と地域がつながり、それにより人々の生活がより豊かで満たされたものになり、物や金銭ではなく、共有することで豊かになれる社会が実現することを目指す。また、環境に配慮した事業にお金が行くことで、人々の意識の転換と、自然の再生、健全な循環が生まれる事が期待される。

地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

ゴミはゴミにならずに資源として循環し、人的な資源も循環することで、島全体がつながりあう「巡る島」

「人々の充足感」と「自然環境の再生」が両立する社会が、私たちの目指す地域の姿

課題（地域の課題、ありたい未来を達成するための障害、等）

八重山の大切なサンゴの海が、50年前よりも大きく衰退。地球温暖化のみでなく陸域での人間活動が大きな原因になっている。島で循環せずにごみとして処理されるものによる環境負荷も大きな問題。

資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

豊かな自然環境、独特の文化芸能、すでに活動している団体、使われていない施設、亜熱帯の気候、繁殖力旺盛な草木

取組（ありたい未来達成に必要な取組、現在想定している事業のタネ、等）

- ローカル経済事業（コラコラ認証の推進、排水浄化の取り組み、石垣型林業の構築）
- 資源循環事業（コンポスト普及・提案、MMO（マイボトルで水おかわり）、プラスチック用品の削減、不用品を資源として循環、海洋プラごみアップサイクル、古い建物の修繕・マッチング）
- 市民啓発事業（コミュニティでの助け合い、給食のオーガニック化、市民学校（生涯学習施設））

成果（取組によって出したい成果）

ローカル経済事業、資源循環事業、市民啓発事業、これら三つの事業の取り組みが連携することで、環境的に持続可能で、社会的につながりあい、精神的にも充足した地域環境が実現することを期待。人と地域がつながり、それにより人々の生活がより豊かで満たされたものになり、物や金銭ではなく、共有することで豊かになれる社会が実現。また、環境に配慮した事業にお金が巡ることで、人々の意識の転換と、自然の再生、健全な循環が生まれる事が期待される。

年間スケジュール

